

(2025年10月28日変更)

2025年度
事業計画書

目 次

1. 方針	1
2. 事業計画	
(1) 科学振興のための研究助成と研究交流	2
(2) 日中未来共創プロジェクト	5
(3) 科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は1924(大正13)年に、(財)科学知識普及会を前身として設立され、難解な科学を多くの人々に分かりやすく伝えること、次世代の科学を担う人材を育成することを主たる使命として活動を続け、昨年(2024年)で設立100周年を迎えました。

近年、新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の生活様式や働き方は大きく変化し、人ととの関わり方もまた、大きく変化しました。ICTを活用したテレワークやオンライン会議等の普及は、科学・技術の発展が、新たな社会への対応に不可欠であることを示しています。また、将来にわたって人類が持続可能な社会を築くためには、科学・技術のイノベーションが必須であり、特に基礎的研究や若手の研究者への支援は、これまで以上に重要性を増しています。

一方、地球温暖化による気候変動問題や感染症の世界的拡大等、地球規模で課題が山積する現代において、世界各国との緊密な連携・協力の重要性は年々高まっています。特に隣国である中国とは、歴史的・文化的にも深い交流があり、経済的にも相互に依存しあっております。地球規模の課題解決に効果的に取り組むため、日中の強固な連携が必要になってきました。

このような社会情勢の中のなか、日本科学協会は「研究者の育成」と「日中の相互理解」を二大テーマに掲げ、「社会と科学をつなぐ」「日中友好」という使命を果たすため、2025年度の事業計画を策定しました。

(1) これからの科学を担う人材を育成する

科学に関する若手研究者の育成を図るため、300件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、研究助成のOB・OGに対するフォローアップの強化等を通じ、研究成果の社会への発信に努めます。また、科学に対する好奇心旺盛な中高生を対象に、専門家が主にメールで研究の個別指導を行うプログラムを実施します。

(2) 日本と中国との相互理解を促進する

日本と中国の相互理解促進のために、中国の大学等に対する日本関係図書の寄贈を実施するとともに、中国の大学生等を対象とした日本に関する日本知識の競技大会の開催、日本や中国に関する作文コンクール等の各事業を開催するとともに、訪日・訪中プログラムを実施します。

(3) 科学の魅力を社会に伝える

科学に関する情報の発信や、本会が主催するワークショップ等のイベントを通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子供や学生、一般の方に対して、科学的素養の醸成を図ります。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進ならびに研究成果の社会還元に努めることにより、科学振興のさらなる充実を図る。

【日本財団助成事業】

① 若手研究者の研究奨励

イ. 学術研究助成

イ) 実施内容：萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。

ロ) 募集方法：一般公募による募集

ハ) 対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する研究
※各分野の中に「海に関係する研究」を含む

二) 対象者：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、
35歳以下の者（外国人留学生を含む）
※「海に関係する研究」は正規雇用者も含む

ホ) 助成金額：約910千円／件（助成予定件数 290件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

イ) 実施内容：教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、
その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して
助成を行う。

ロ) 募集方法：一般公募による募集

ハ) 対象となる研究：

a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究：

学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の
解決に向けて行う実践的な研究

b. 学芸員・司書等が行う調査・研究：

学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・
研究

二) 対象者：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）
あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など

ホ) 助成金額：約250千円／件（助成予定件数 20件）

③ 研究助成の推進

- イ) 実施内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。
- ロ) 2026年度「笹川科学研究助成」助成計画策定
- a. 募集要項、選考方針等の策定
 - b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
 - c. 2026年度の研究助成計画の策定
- ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理
- 笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管
- ニ) 研究助成実績に関する資料の整備
- 「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

- イ) 2025年度助成
- a. 実施内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
 - b. 対象者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
 - c. 助成金額：約240千円／件（助成予定期数 70件）
- ロ) 2026年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 笹川科学研究奨励賞の選出

- イ・賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。
- ロ. 対象件数：2025年度助成者のうち、学術研究助成から14名以内、実践研究助成から2名以内

⑥ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」

- イ) 対象件数：2024年度「笹川科学研究奨励賞」受賞者16名以内
- ロ) 表彰内容：賞状および副賞各100千円
- ハ) 動画作成：受賞者の研究発表動画の作成とWebサイトでの公開
- ロ. 研究発表会の開催
- イ) 開催時期：2025年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）
 - ロ) 実施内容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答
 - ハ) 参加者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約170名

- ⑦ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催
- イ. 開催時期：2025年4月下旬
 - ロ. 実施内容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流
 - ハ. 参加者：2025年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約450名



【笹川科学活性化基金事業】

- ⑧ 研究成果発表会の開催
- イ. 開催時期：2025年10月（予定）
 - ロ. 実施内容：笹川科学研究助成を受け研究者として活躍しているOB・OG 4～5名による研究成果の発表と質疑応答。昨年に引き続き海洋分野に関することをテーマとし、関心をもった企業に参加してもらう。
 - ハ. 実施方法：企業を会員としている海洋関係の社団法人と連携して企業が関心を持ちそうなテーマで研究成果発表会を開催する。発表者は、OB・OGに公募し選定する。

【自主事業】

- ⑨ 海外若手研究者育成助成
- イ. 実施内容：ベトナムで日本に関する人文・社会科学研究を行う若手研究者に助成を行うことで、日本への関心を高め、日本人とは異なる外国人としての視点での研究を行うことで、日本に関する研究の幅を広げる。
 - ロ. 募集方法：ベトナム国家大学を通しての公募
 - ハ. 対象となる研究：日本に関する人文・社会学研究
 - ニ. 対象者：ベトナムにて、日本に関する人文・社会科学研究を行う大学院生など
 - ホ. 助成金額：500千円／件（助成予定件数 4件）

事業費総額：370,770千円

【日本財団助成事業費 ①～⑦】

366,270千円（事業費：305,050千円、事業管理費：61,220千円）

【笹川科学活性化基金事業 ⑧】

1,500千円（事業費のみ）

【自主事業 ⑨】

3,000千円（事業費のみ）

(2) 事業名「日中未来共創プロジェクト」

【日本財団助成事業】

日本国内で収集した教育・研究図書の中国の大学等への寄贈、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、「研究論文コンクール」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに3事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図り、日中の将来を担う人材の育成に寄与する。

① 図書寄贈

- イ. 実施内容：中国への寄贈を目的に日本の各方面に対する協力依頼を通じて図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき継続寄贈する。
- ロ. 図書の収集、寄贈
 - イ) 収集：2万冊/年
 - ロ) 寄贈：8万冊/年
- ハ. 寄贈対象：90大学等
- ニ. 寄贈方法：中継寄贈システムにより集約寄贈



② 笥川杯全国大学日本知識大会

- イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会の2026年度開催に向けて、準備等を行う。
 - ロ. 開催時期：2026年5月
 - ハ. 参加者：中国全土の約100大学の日本語学習者
- ※2025年10月開催予定であった日本知識大会は、開催大学の都合により中止とした。

③ 作文コンクール

- イ. 笥川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（中国語版、日本語版）
 - イ) 実施内容：中国全土の若者を対象として、日本関係図書等の感想文を中国語或いは日本語で募集する各作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。
 - ロ) 共催機関：上海交通大学図書館（中国語版）
中国外文局アジア太平洋広報センター（日本語版）
- ハ) 応募資格：中国の大学生（中国語版）※中国全土の大学図書館を窓口とし募集
16歳～35歳の中国国民（日本語版）
- ニ) 日本招聘：優勝者等 12名

ロ. Panda杯全日本青年作文コンクール

イ) 実施内容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター、中華人民共和国駐日日本国大使館

ハ) 応募資格：16歳～35歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞等 合計49名

・2022年度分 26名※22名+JSS 4名

・2024年度分 23名

④ 新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

⑤ 笹川杯日本研究論文コンクール

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクールを開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ. 共催機関：中国日語教学研究会、吉林大学

ハ. 応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ. 日本招聘：成績上位 合計4名（上限）

ホ. 優秀論文集の出版

事業費総額：123,860千円

【日本財団助成事業費①～④】

109,850千円（事業費：55,920千円、事業管理費：53,930千円）

【笹川科学活性化基金事業費 ⑤】

14,010千円（事業費のみ）

(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成し、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業】

① 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

学校教育の枠にとらわれない高度な専門研究レベルの科学教育のプログラムを実施し、次代の科学・技術を担う人材を育成する。

イ. サイエンスメンタープログラム

イ) 実施内容：科学に関心を持ち、個人もしくは小グループで科学的研究を進めている中学生・高校生（メンティ）に対して、経験豊かな自然科学・応用科学の専門研究者（メンター）から、科学的研究の基礎を一定期間学ぶことができる機会を提供する。

ロ) 対象件数：20件程度

ハ) 研究期間：原則として半年～1年

ニ) 研究費：原則として1件につき200千円を上限として、実費を支給する。

ホ) 研究発表会：年2回開催（8月と3月を予定）

ヘ) 募集と審査・選考：年間を通して参加希望者を公募し、サイエンスメンター事業委員による審査・選考を行う。

ト) その他：サイエンスメンタープログラムに関心がある希望者を対象として研究相談を行う。

ロ. 統計講習の講習

イ) 実施内容：学校教育のカリキュラムには含まれないが、科学的研究の基礎として学ぶことが重要な統計学に係る講習会を開催する。

ロ) 開催時期：2024年8月、2025年3月

ハ) 対象者：中学生・高校生・学校教員 各講習会1回につき20～50人

ハ. 中高生の研究環境や科学コンテスト等の調査

個人の研究能力向上に資する大きな要因である研究環境や科学コンテスト等について、国内外で調査を実施する。

【笹川科学活性化基金事業】

② サイエンスコミュニケーション

科学に関する様々な分野の専門家の知識を一般に広めることを通じて、科学・技術への興味や関心を高める一助となることを目指し、様々なコミュニケーションの機会を設けて啓発活動を行う。

イ. セミナー、ワークショップ等の開催（地球科学関連ワークショップ：子どもゆめ基金）

イ) 実施内容：物理学や生物学、地球科学等について分かりやすく解説するセミナーやワークシ ョップを実施する。

ロ) 対 象：中高生、中高教員、一般

ハ) 講 師：大学教授などの専門家

ニ) 開催形式：現地開催またはオンライン

ホ) 開催時期・回数：7月～11月に1～2回

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業】

③ 科学実験情報の Web 公開

実験映像を纏めた「Web 版科学体験まつり」や、子供たちの教育や指導にも活用できる身近な生活のなかの「科学」に関する様々な話題を集めた「科学実験データベース」と「コラム」を Web で公開する。

イ. 「Web 版科学体験まつり」などの Web 公開と新規映像の追加

イ) 実施内容：リアルな科学実験体験が難しくなっている子供たちを対象に、実験映像等をまとめた「Web 版科学体験まつり」や「科学実験データベース」「コラム」を引き続き Web 公開して、自ら学ぶ機会を提供する。また、「Web 版科学体験まつり」には新規映像を追加することで集客力の向上を図り、より魅力的なコンテンツを制作する。

ロ) 実施方法：Web の管理は、本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託する。「Web 版科学体験まつり」に追加する新規映像については、映像編集会社に撮影と編集を委託し、新規性のあるコンテンツを制作する。

④ 子供たちへの科学実験体験

感受性の高い小学生を対象に、自然の法則や科学の原理などの科学・技術の楽しさや素晴らしさを伝え、子供たち自身の科学への興味・関心の自覚を促すため、講師による科学実験教室を開催する。

イ. 「離島で行う科学実験（隠岐諸島）」イベントの開催（子どもゆめ基金）

イ) 実施内容：科学に接する機会の少ない離島に住む子供たちを対象に、科学への興味がイベント終了後も持続するように、島の特産物を活かした実験を中心とした地域密着型の科学実験イベントを開催する。

ロ) 実施方法：兵庫教育大学原体験教育研究会と共に隠岐諸島の海士町で参加希望者を募って実施する。

ロ. 「離島で行う科学実験（久米島）」イベントの開催

イ) 実施内容：科学に接する機会の少ない離島に住む子供たちを対象に、海に関する実験を中心とした地域密着型の科学実験イベントを開催する。

ロ) 実施方法：小学校と連携して久米島町内全校の6年生を対象に、授業時間内に社会教育として実施する。



事業費総額：33,770千円（事業費：23,400千円、事業管理費：10,370千円）

【モーターボート競走法制定40周年記念事業 ①③④】

20,100千円

【笹川科学活性化基金事業 ②】

3,300千円